



深い感謝と心よりお祝い

基本理念

病む人に寄り添い、安全かつ最適な医療を提供します



九州医療センターの基本理念

基本理念は2018年10月に職員全員の意見を集約して決定されました。「病む人に寄り添い」とは、常に患者さんに接して苦痛や希望を知り、患者さんの権利を第一に、ご家族や重要な関係者の思いにも耳を傾けて温かい医療を実践する姿勢を表しています。「安全」な医療とは、検査および治療成績とともに当院での成績をもとに十分な説明を行い、患者さんの理解と同意を得て、可能な限り不利益を最小限化して提供する医療です。また「最適な」医療とは、病院の総合力を生かして、いくつもの選択肢の中から患者さんの自己決定権のもとで選ばれた医療を、患者さんと医療者が協議して実践する医療です。

職員は時代の変化と患者さんのニーズに柔軟に対応できるよう日々研鑽し、医療連携を推進し、病院の健全な経営にも積極的に参画し、一丸となって基本理念および運営方針を推進します。

INDEX

- ① 送る言葉 岩崎浩己
- ② 退任の挨拶 中牟田、原田、寺田、古谷、佐々木、松下
- ③ 異動の挨拶 和田、竹中、田代、今西、渡辺、養田、橋本
- ④ 新臨床研修医へ贈る言葉 富永、林田、山田、廣瀬
- ⑤ さわやかナースィング 筒井三記子
- ⑥ ヒポクラテスのカフェ 吉住秀之
- ⑦ 認知症ケアチーム 桑城貴弘
- ⑧ 九州とところどころ / 地域医療研修センターより



人生には意味がある

院長 岩崎 浩己

この3月で定年退職を迎えられた皆さま、昇任でご異動となられた皆さま、キャリアプランのなかで次のステップに進まれた皆さま、国立病院機構の職員として期間の長短はあっても、これまで九州医療センターを支えていただきましたことへの深い感謝とともに心よりお祝いを申し上げます。はなむけの言葉として適切かどうか少し迷いましたが、「人生には意味がある」という表題といたしました。当院での私の体験を交えて、拙文を寄せさせていただきます。

2020年8月末、血液内科病棟で大規模なCOVID-19クラスターが発生し、当時診療科長であった私は危機管理の最前線にいました。感染の広がりには予想以上であり、患者さんとスタッフの安全を守る責任の重さに押しつぶされそうになりながら、「なんで自分の人生にこんなに厳しいことが起きるんだろう」という一種の虚無感が幾度となく頭の中に浮かんできました。疲労がその思いに拍車をかける悪循環をなんとか断ち切ることができたのは、一冊の本からの学びがあったからなんです。それは、オーストリアの精神医学者ヴィクトール・エミール・フランクルの「夜と霧」という古典的名著です。

ユダヤ人であるフランクルは、第二次世界大戦時のナチスによる強制収容所に収監されました。そこでの生々しい過酷な体験を淡々と綴りながら、フランクルは“人が生きる意味”、別の言い方をすれば“人生の使命”について爽やかに描き出しています。「人生が人間に問いを発してきている」と彼は言います。思考の立脚点を“自分自身”から“人生の流れや出来事”に移したとき、好むと好まざるにかかわらず、その出来事が自分にとってもつ意味を考えることが出来るようになります。少し大げさですが、「運命の中に自らの使命を見出すことで精神性を高める」ということなのだそうです。こういった思考の転換によって、窮地においてどのような振る舞いをすべきか、周囲からの期待に全力で応える覚悟を私自身もつことができたと思います。もちろん、ICTやコロナ専用病棟の皆さんの献身的な働きと組織を越えた多大なご協力に支えられたことは言うまでもありません。

“人生の流れや出来事”には、自分である程度コントロール出来ることとそうでないことがあると思います。目標を定めてその実現に向けて努力し続けることは尊いことですし前者に含まれることでしょう。一方、予期せず降ってくる出来事の方が実際には多いのかもしれませんが、そこには好運なこともあれば好ましくないと感じることもあるでしょう。何れにしても、それぞれの出来事の意味を考えて自身の成長に繋げることができるかを問われているということだと思います。九州医療センターを離れて新しいステージに移られる皆さまにとって今がその時なのだろうと思い、少し重たい話になってしまいましたが「夜と霧」を紹介させていただきました。「人生には意味がある」と思えば人として成長を続けられるはずですし、病院組織もまた然りなのかなと思います。成熟した病院であるために、日々の様々な出来事のもつ意味を皆で考え続けていくことの大切さに改めて気づかされました。最後になりましたが、皆さまの人生が輝きを増していくことを祈念して送る言葉といたします。お疲れさまでした。



ウイルス性肝疾患から代謝性肝疾患へ

前肝胆膵センター部長 中牟田 誠



私、2008年に当院に赴任しましたが、早いもので17年間の勤務となりました。当時はC型肝炎がまさかりの時であり、副作用の強いインターフェロン（＋リバビリン）を48週間頑張っても半分の方しか治らない時代でした。2014年からは経口抗ウイルス薬のみによる治療となり、現在では8～12週の服用でほぼ全例が治癒する時代となりました。B型肝炎も2000年に経口抗ウイルスが登場し、現在ではC型肝炎と違いウイルス排除はできませんが、増殖を抑えることは可能となっています。本当に隔世の感を禁じえません。このように、ウイルス肝炎はほぼ制圧されたのですが、一方、非ウイルス性肝疾患は増加しており、大きな問題となっ

ています。代表的なのが非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）であり、昨年からはアルコール性肝疾患なども含めた大きな枠組みである代謝異常関連脂肪性肝疾患（MASLD）として捉えられています。日本では3500万人以上が罹患していると推測され、その1割程度が肝硬変に進行していくと言われてます。また、当然のことながら、肥満、糖尿、高脂血症、高血圧などを合併していますので、ますます他科との連携が重要となっています。このような状況の中で、私自身は、特に肝臓の代謝を専門としてきましたので、今後は今しばらく週3日非常勤として外来と研究を継続させていただく予定です。長期にわたり大変お世話になり、本当に有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。

愚直

前光学診療部長 原田 直彦



私は「愚直」と言う言葉が好きです。「愚かな直彦」と私自身を端的に表す言葉ですし、「愚直」であることが好きです。

九州医療センターで過ごした18年間、愚直に消化器診療、内視鏡診療に携わってまいりました。18年間、当院で行われた上下部消化管内視鏡検査約12万件については全例全コマのダブルチェックを行い、見逃されかけた早期癌を年間2～3例程ずつ拾い上げることができました。

女性内視鏡医のキャリアサポート体制を2008年に開始し計16名が本体制で研修を行いました。内9名が消化器内視鏡専門医を取得し、彼女達の25名の子育てを支援することができました。

NHOネットワーク研究グループ消化器分野のグループリーダーとして、英文原著9報、和文原著2報の発表に貢献することができました。英文原著1報投稿中、2報作成中でありもう少し増えるはずです。

医局秘書さん達のご協力により配付資料等の余った紙を集めて頂き、正式書類以外の印刷には裏紙を使用しました。新しい用紙の使用はごく少なく紙資源の保全にわずかながら貢献しました。

18年間勤め上げ無事に定年を迎えることができましたのもひとえに皆様のご指導、ご協力の賜物と篤く御礼申し上げます。わが子3人も当センターで生まれ、家族が皆健康に過ごしておりますのも当センターのお蔭と重ねて深く感謝申し上げます。

九州医療センターが今後さらなるご発展されることを心より祈念いたします。

さらば愛しき九州医療センター

前整形外科医長・脊椎運動器センター部長 寺田 和正



1998年4月、九州大学から前副院長の宮原寿明先生とともに赴任して以来、実に26年間も勤務し、ついに定年で退任いたします。整形外科医になって40年以上が過ぎ、私の専門領域は脊椎外科で、在任中は来る日も来る日もひたすらせぼねの手術をやってきました。2007年頃に、NHKのみんなのうたで

「おしりかじり虫」という歌とアニメが流行りましたが、私の場合は、さながら「せぼねかじり虫」として日々を過ごしてきました。この間5000例以上の脊椎手術を執刀させていただいたことは、脊椎外科医冥利につきます。また九州医療センターならではのリウマチ頸椎手術や成人脊柱変形の矯正手術などの高難易度の手術や数多くの再手術例を経験できたことは私のかけ

がえのない財産となりました。いたらぬ私を支えてくれた宮原先生をはじめ、小原、宮崎両先生、手術室や病棟、外来のスタッフの皆様心から感謝いたします。せぼねの手術しか取り柄のない私で、やってる手術はいささか古びてきましたが、4月からは私の4人の恩師とゆかりがある東区香椎照葉の福岡みらい病院で脊椎手術を続けていくつもりです。まともな手術がいつまでできるかどうかわかりませんが、脊椎疾患で苦しんでいる患者さんを一人でも多く治すことが残された使命だと思っています。

宮原、寺田体制が終わりを告げ、九州医療センター整形外科は新しいフェーズに入ります。富士科長はじめスマートでアカデミックな精鋭たちのますますのご発展をお祈りいたします。最後に、九州医療センターの全職員の皆様、長い間、本当にお世話になりました。

> 20 年間ありがとうございました

前放射線科医長 古谷 清美



2004年赴任当時、放射線科は午前中は超音波と消化管造影検査に追われ、午後から読影にとりかかり、CT・MRI・核医学の注射も全て医師が行っていました。これからやっていけるのだろうか、と不安でしたが、お陰様で専門の呼吸器疾患を中心に思う存分画像診断を行うことができました。

臨床の知識が乏しい私が内科当直10年と管理当直5年を全うできたのもひとえに皆様のおかげです。咯血しだした非結核性抗酸菌症の患者さんが私の内科当直の土曜日午後に来院された事など今でも鮮やかに覚えております。仰向けでも側臥位でも呼吸できない患者さんを放射線技師さんと相談して（かなり小柄だったので）半座位でCT撮像してもらい病棟に上がり、

ペアの研修医さんと“早く主治医の先生が来れるといいね。”と話しながら病棟指示をしていたところ、突然看護師さんが“患者さんが息をしていません！”と言いながら駆け込んで来られました。研修医さんと二人、“どうしよう！”と真っ青になったところ、私達の横でカルテを書いておられた外科系のW先生が、“良かったらお手伝いしましょうか？”と素早く挿管してくださり、ハリーコールに応じて駆けつけてくださった先生方で病室は黒山の人だかりとなり、患者さんは助かりました。

これ以外にも数限りなく何度も科を超えて皆様に助けていただきました。

全ての職員の方々に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

> 退任のあいさつ

前事務部長 佐々木 豊光



3月31日をもって、定年退職を迎えることとなりました。

国立病院入職後、九州管内の12の施設に勤務し、延べ13回の転勤（うち11年間は単身赴任）を経験いたしました。転勤の都度、新しい環境に身を置き、常に忙しく、時には仕事に追いつけず立ち止まることも数回ありましたが、

なんとか乗り越えることができたのは、転勤先で共に働いた周囲の方々のご協力とご指導があったからこそだと、心より感謝申し上げます。

九州医療センターは、今年7月に開院30周年を迎えます。その間、地域医療支援病院の認定や救命救急センターの開設など、開院当初より強大かつ多機能を備えた病院へと発展してまいりました。また、福岡市の人口は予想を上回る増加率で、高齢化も進んでいます。このような環境や需要の変化にも柔軟に対応しつつ、更なる高度化を目指すためには、九州医療センターで働く職員の皆様が前向きの意識を持ち、同じ方向に進むことが重要であると存じます。NHOを代表する九州医療センター職員としての自覚と誇りをもって、今後ともご活躍くださいますよう、心よりお祈り申し上げます。

> お世話になりました

前臨床検査技師長 松下 義照



在任中は皆さまより多大なるお支えを賜りましたこと、心より感謝申し上げます。また、国立に入職以来憧れの施設でありました九州医療センターで定年を迎えられたことは、この上ない喜びでございます。

賃金職員として九州がんセンターをスタートして35年の間に、菊池恵楓園、都城医療センター、佐賀病院、福岡病院を経験し、当院では病理主任5年、副技師長2年、技師長5年と出戻りを繰り返し3度勤務させていただきました。いずれの職責においても協力し合える良い同僚と上司に恵まれて多忙ではありましたが、とても実のある日々を過ごさせていただきました。

当院では多くのことを経験させていただきました。特に忘れられない出来事は世界で猛威を振るった新型コロナウイルス

感染症の蔓延です。当初日本では、ウイルスのPCR検査は行政での実施が主体であり、医療者への曝露や院内感染を防ぐための目的で院内導入している施設はほとんどありませんでした。当検査部は他施設に先駆けて、PCR検査の技術を習得し、品質と精度の確保に努めて院内実施へとこぎつけました。その後すぐに病棟でクラスターが発生し、検査数などICTの要望に柔軟に対応した結果、感染拡大の防止、原因の特定、制圧、終息に少なからず貢献できたと自負しております。

九州医療センターは私にとって成長と学びの場でした。最後に皆さまの益々のご健勝とご発展を心より祈念するとともに、今後とも臨床検査部にご厚情賜りますよう宜しくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。



20 年間ありがとうございました // 前肝胆膵外科医長 和田 幸之



九州医療センターには2000年から外科研修医レジデントで2年間、そして2006年からは肝胆膵外科の元部長の才津先生のご厚意で肝胆膵外科医として赴任しました。それから約18年間と医師になって大半の期間をここで働かせていただきました。働き方改革が叫ばれている現在では問題となりますが、高見科長と二人、毎日深夜まで働いたり、毎週日曜の昼から術前カンファレンスをしていた頃が懐かしく思い出されます。「すべては患者さんのために」という信念をここでたたき込まれた気がします。九州医療センターでは、数多くの症例や学会活動など他では経験できないようなことも数多く経験させていただきました。

ました。医師としてだけでなく、人間性も鍛えていただきました。ひとえに、ここまで育てていただいた才津先生、高見先生をはじめ、肝胆膵外科の同僚の先生方、気軽に様々な相談に乗っていただいたいろんな科の先生方、そして看護師やコ・メディカルの方々、みなさんの助けがあって、今の自分があるのだと感謝の気持ちで一杯です。九州医療センターは非常にレベルが高く、他科の垣根が低く、コ・メディカルの方々もとても協力的で、とてもよい病院だと思います。春からは、家の事情もあり、地元の広島に戻って働くことにしました。ここで培った経験のもと、今後は広島の医療に少しでも貢献できればと思っています。本当に20年の長きにわたり、ありがとうございました。

16 年間お世話になりました // 前循環器内科医長 竹中 克彦



2008年4月に久留米大学心臓血管内科から出向し、当時は2年間だけの予定でその後は大学に戻り研究・留学という人生プランを考えていました。就任当時はPCIの技術向上を目標に当院だけでなく、ハイボリュームセンターへの見学、各地で開催されるトレーニングコースに参加させていただきました。さらに他施設の先生方とPCIに関する症例検討会や学会発表などを通じて当院での治療成績などをアピールしてきました。その後、新しい後輩の先生が増え、一緒に働き、楽しいことや苦労を経験することで大学への帰学願望は薄れていきました。さらに病棟医長という重要な役割を任命され、当時の大学医局からのアンケートに「九州医療

センターにとって自分は必要不可欠な存在」と返答をするほどになりました。病棟医長として入院患者の管理だけでなく病診連携の強化のため最初は冷牟田浩司副院長と一緒に地域支援病院やクリニックへの挨拶回りをはじめ、その後は単独で連携室の協力の下、敷居の低い循環器内科のアピール・循環器ホットラインの紹介など約140施設を訪問させていただきました。2019年2月には心不全多職種チームを設立し、現在に至っております。ふりかえれば16年間でそれなりの業績と自分なりに満足しています。その間、自分を支えてくれた病院・医療スタッフ、そして患者様に文書では足りないくらい感謝します。これからも九州医療センターの発展を期待します。ありがとうございました。

異動のご挨拶 // 前MEセンター 臨床工学技士長 田代 博崇



この度、長崎医療センターへ異動することとなりました。九州医療センターでは2年間勤務させていただきました。赴任当初は九州医療センターで勤務が務まるのか不安な日々を送っていましたが、MEセンターのスタッフをはじめ多くの皆様に支えられ無事に過ごすことができました。この間にハイブリッド手術室の完成とそれに伴う経カテーテル的大動脈弁植え込み術（TAVI）

の立ち上げや手術支援ロボット（da Vinci Xi）の増設とそれに伴う工事など貴重な経験させていただきました。次の赴任地でも九州医療センターでの経験を活かしていきたいと思っています。

九州医療センターで過ごした2年間は、私にとって素晴らしい財産となりました。ご指導いただいた皆様に感謝を申し上げますとともに、これからの九州医療センターのご発展と皆様のご健勝を祈念して異動の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



異動のご挨拶

前副診療放射線技師長 今西 美嘉



このたび、福岡病院へ異動することになりました。九州医療センターには2017年に副診療放射線技師長として赴任し、7年間勤務させていただきました。当院で一般技師時代を過ごした私にとって古巣ではあるものの、責任ある立場として円滑な業務が遂行できるよう試行錯誤の連続だったように思います。この間、COVID-19のパンデミックや放射線に係る医療法の改正などがあり、今まで経験のないことに対する「対応力」

を求められました。特に、医療安全管理部への医療放射線安全管理責任者の配置、タスクシフト／シェアに伴う診療放射線技師による静脈路確保の実践などに関しては、幹部・看護部の皆様のご理解と積極的なご協力のおかげで実現でき、診療放射線技師の役割の拡充に繋がったと感謝いたします。ここでの経験や学びは私にとってかけがえのない財産となり、これを糧に新天地でも努力していきたいと思います。

九州医療センターの益々のご発展と職員の皆様方のご活躍を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。



異動のご挨拶

前副臨床検査技師長 渡辺 秀明



平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度4月の人事異動におきまして肥前精神医療センターへ臨床検査技師長として赴任することとなりました。九州医療センターには2年前鹿児島より赴任してまいりました。医療の質の高さで国立病院機構

内トップクラスである九州医療センターの副技師長ということで、プレッシャーに押し潰されそうにもなりましたが、荒川臨床検査部長をはじめ松下臨床検査技師長や検査部スタッフのおかげでなんとか2年間務めることができました。感

謝申し上げます。振り返ればあっという間でしたが、1日1日の情報量が、他施設では学ぶことが出来ないくらい多く大変勉強になりました。基本理念である「病む人に寄り添い、安全かつ最適な医療の提供」を念頭に、九州医療センターで学ばせていただいたスピード感のある対応力、尽きることの無い探求心、笑顔の絶えないコミュニケーション能力を肝に銘じて、次施設でも最大限頑張りたいと思います。来年度より臨床検査部は4名の新採用者を迎え大きく若返ります。何かと皆様にご負担をおかけすることがあるかと思いますが、温かな目で見守って頂けたらと存じます。今後とも臨床検査部へのご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



異動のご挨拶

前副看護部長 養田 尚美



この度、九州医療センターより琉球病院へ異動することとなりました養田でございます。2年間という短い期間でしたが、九州医療センターの皆様には大変お世話になり、感謝申し上げます。九州医療センター在職中は、多くのことを経験させていただきながら、患者さんに寄り添い、そして職員に寄り添うという理念のもと、看護管理者としての学びを深める

ことができました。また、このように大きい病院で令和6年7月の病院機能評価受審に向けたプロジェクトチームのコアメンバーとして岡田靖副院長はじめ幹部職員の皆様、看護師長・副看護師長の皆様、コメディカルの皆様等の協力・連携をいただきながら改善活動に取り組めたことは大変貴重な経験でした。新天地では、九州医療センターでの経験と学びを活かし、看護管理者として「明るく楽しく前向きに」「情熱」を持って、「患者さん、そして職員に寄り添う」を展開していきたいと思っています。本当にありがとうございました。



異動のご挨拶

前経営企画室長 橋本 裕二



この度、都城医療センターへ異動となりました。経営企画室長として2年間勤務させていただきました。私にとって九州医療センターはNHOトップの病院であり、実際に赴任してその規模の大きさに圧倒されたことを昨日の

ありますが、エイズ拠点病院や循環器病総合支援センター等、他の病院では経験できない多くの業務もさせていただき、九州医療センターでの勤務は私の貴重な財産になったと思っています。ここでの勤務経験を誇りにし、次の職場でも頑張っていきます。本当にありがとうございました。

新臨床研修医へ贈る言葉

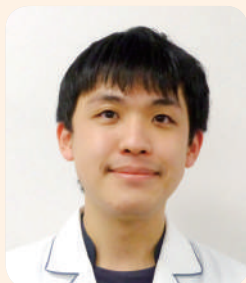
臨床教育研修センター長 富永 光裕



この春、医師国家試験に合格され、当院で医師としての第一歩を踏み出される皆様にお祝いを申し上げます。これからの初期研修の2年間は、医師・社会人としての人格を涵養し、基本診療の能力と医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）を培う重要な2年間です。プライマリ・ケアから最先端の医療まで、多彩な臨床経験を積むことができる充実した研修が準備されています。また初期研修から専門医研修へのスムーズな移行も可能です。患者さん、指導医・上級医、指導者、スタッフの方々への感謝の気持ちを忘れずに、将来自分が目指す医師像を描きながら、最後までモチベーションを維持して、積極的に初期臨床研修に取り組まれてください。成長されていく姿は当センターの活力でもあります。無事に2年間の研修を修了され、笑顔で次のステップへ進まれるように皆様をサポートします。

新臨床研修医の皆様へ

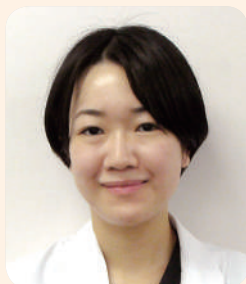
林田 寛之



国試合格ならびにご入職をおめでとうございます。ようやく医師として働き始められる晴々とした気持ち、逆に医師として働く責任の重さに対する不安、今後どんな医師になっていくのかの迷い、新たな環境で多くの人と出会える期待感など様々な思いを胸に今を迎えていることと思います。今後の研修生活はこれらの思いに力強く答えてくれるでしょう。当院には数多くの同期や先輩研修医・専攻医、多様な経験や背景を持つ上級医の先生方を擁しています。日常診療における些細なことから医療観、医師としての人生設計に至るまで多くのことを学べるでしょう。積極的に医療と向き合い、二年後に素晴らしい医師になっていることを心から期待しています。

新研修医へ贈る言葉

山田 佳奈



新研修医の皆さん、医師国家試験合格おめでとうございます。そして九州医療センターへようこそ！皆さんの入職を心から歓迎いたします。

もしかしたら医師として、新社会人としてのスタートに不安を抱くこともあるかもしれません。そんなときは周りを見渡してみてください。当院は同期・先輩の人数が多く、互いに助け合いながら成長できることが最大の強みです。医師の数も多く、将来のロールモデルとなるような先生との出会いもあるかもしれません。

初期研修の2年間は、想像以上にあっという間に過ぎ去ってしまいます。自分の興味のあること、目指す道に向かって突き進んでください。その先ではきっと、素敵な一生の仲間も得られることでしょう。実りある研修となりますよう、心より祈念いたします。

九州医療センターへようこそ

廣瀬 雄一



ご卒業及び当院へのご入職、心よりお祝い申し上げます。これからは自分で患者さんの診察を行い、治療法を決定するという重要な役割を果たしていくことになります。培ってきた知識を存分に発揮してください。当院は様々な診療科を擁しており、各分野で高い専門性を持った先生方が多数在籍しています。困難に直面した時は、積極的に先生方に相談しましょう。

この初期研修の2年間を通しての最大の目標は、自分がなりたい医師像を明確に描けるようになることだと思います。嬉しいことも辛いことも、全ての経験が糧となります。色々な経験にチャレンジする姿勢を大切にしてください。

新たなスタートに際し、皆さんの成長とご活躍を心よりお祈りしています。

看護職員向け就職説明会に参加して

副看護部長 筒井三記子

National Hospital Organization Kyushu medical center

令和6年2月12日、福岡国際センターで開催された「ナース専科」主催の合同就職説明会に参加してきました。全体で736名の来場者があり、当院のブースには、北は岡山から南は鹿児島まで、170名もの学生さんが足を運んでくれました。スタッフ10名OneTeamで、学生さんの質問にひとつずつ丁寧に答えながら、初めてお披露目した当院のイメージキャラクター「ももろう」グッズと共に、当院の魅力をアピールしました。学生さんの看護師になるという夢や、将来のキャリアについても具体的に考えていると感じられたこと。また、当院の魅力を再認識する貴重な機会になった等、参加してくれたスタッフからの感想をもらい、感激の説明会となりました。

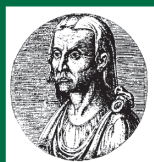
株式会社日本マンパワーが実施した「新入社員意識調査2022」で新入社員が働くうえで最も大事にしたいもののトップは「心地よい環境にすること」だそうです。看護部では、高度先駆的総合医療を担うチームの一員として、スタッフが様々なことを学び、経験し、成長できるように支援するとともに、2023年度から「関係の質向上」に取り組んでいます。それは、スタッフがお互いをリスペクトし良好な関係を築くことで、「思考の質」「行動の質」が高まり「結果の質」に結び付き、「組織の成功循環」を目指して、西山看護部長を筆頭に看護職



長会で始めたプロジェクトです。この1年で、新人看護職員の離職率は半減しました。心地よい職場環境づくりと人材育成支援を柱に、スタッフが楽しくやりがいをもって働き続けることで人材確保につなげることができるよう、今後いろいろと工夫していきたいと思います。

まずは、どうか今年もたくさんの学生さんが当院を選んでくれますように…。皆様、今後ともご支援ご協力の程よろしくお願いたします。





ヒポクラテスのカフェ

“食物連鎖：シイタケの話”

NHO 都城医療センター 吉住 秀之

さて、互選も一段落となったところで、お待ちかねのシイタケ飯である。御飯にシイタケをたきこんで、うすく味をつけただけの、あんなものが、どうして、あれほど美味しかったのだろう。
(野村胡堂『胡堂百話』)

シイタケ (*Lentinula edodes*) は、1875年にイギリスの科学調査船チャレンジャー号が日本で採取した標本に基づいて、イギリスの菌学者マイルズ・ジョセフ・パークレイ Miles Joseph Berkeley (1803-89) により分類、学名が付与されました。種小名の *edodes* は「江戸」にちなむという説と、ギリシャ語の「食用の *edodimos*」を意味する語に由来するという説があります。当初の属は *Agaricus* でしたが、その後8回も変更され現在の属名に落ち着いています。今や世界的に有名なキノコで、英語でそのまま shiitake で通じます。

日本食としてももっとも大切なうま味を出したいせつな食材ですが、うま味は世界的にも5つの基本味の一つとして確立しています。その解明には日本人が多大な貢献をしています(鰹節、昆布、椎茸のうま味成分はどれも日本で発見され、製造法も日本で開発されました)。その一つである鰹節のうま味成分がイノシン酸であることは、1913年に明らかにされていました。しかし工業的に生産するにはコストがかかりすぎるため製品化はされていませんでした。ヤマサ研究所の國中明はさらにイノシン酸の中の5'-イノシン酸がその本体であることを1955年に明

らかにしています(当時イノシン酸に2'、3'、5'の異性体があることはまだ分かっていませんでした)。続けて1960年に椎茸のうま味成分が5'-グアニル酸であることを報告します。彼は酵母RNAから5'-ヌクレオチドを製造する技術開発を進める過程で、ペニシリウム属の青カビがヌクレアーゼP1という酵素を産生することをつきとめ、ここから呈味性ヌクレオチドである5'-イノシン酸と5'-グアニル酸の工業生産法も開発しました。研究の結果、副産物である5'-グアニル酸が5'-イノシン酸よりもより強いうま味をもつことに加え、これらのうま味成分のそれぞれを、池田菊苗がつきとめた昆布のうま味グルタミン酸ナトリウムと混ぜるとさらに引き立つ相乗効果があることも分かりました。この発見は精製した5'-イノシン酸とグルタミン酸ナトリウムの味を較べようとした際に口も漱がずに口中にいたことによるセレンディピティであったことを後に國中は回想しています。一連の功績は1964年の恩賜発明賞受賞に結実しました。

約半世紀の時を経て、2002年にG.Nelsonらはマウス由来のT1r1とT1r3という受容体複合体がうま味受容体であると報告し、その後の研究からヒトにおいてイノシン酸はグルタミン酸の応答を特異的に増強することが発見され、うま味の相乗作用が分子レベルで解明されました。

シイタケの出汁をとる際のコツは、冷蔵庫で干しシイタケを時間をかけて戻した後、鍋にいれて一気に60-70℃に温度を上昇させて、サッと取ることです。これはグアニル酸の分解酵素活性は40-50℃で最大になるのに対して、RNAを分解してグアニル酸をつくる酵素の活性が60-70℃で最大になるからです。

生命の遺伝情報を伝えるRNAを分解することで、うま味が生まれるとともに、核酸を元にした様々な医薬品が発明されて命をつないでいることに思いを馳せながらシイタケ御飯を噛みしめるとますます味わい深くなります。

認知症ケアチーム

Dementia Care Team : DCT



脳血管・神経内科 桑城 貴弘

九州医療センターでは、2021年11月1日から認知症を併存する入院患者に対して、専門的な知識を持った医師や看護師、精神保健福祉士等の多職種が連携してケアを行う認知症ケアサポートチーム(DCT)の活動を開始しました。

進行する高齢化社会においては、認知症の頻度も急速に増加しています。2020年の65歳以上の高齢者の認知症有病率は16.7%で約602万人となっており、6人に1人程度が認知症有病者とのことですが、2030年には20%を超えると予想されています(内閣府「高齢社会白書」)。

入院患者においても、高齢化とともに認知症を合併する頻度が増加し、急性期病院においても、治療目的となった疾患だけでなく併存疾患としての認知症への対応がますます重要となっています。当院は認知症ケア加算1の施設基準を取得しており、このDCTのチーム活動はその中核的な必須の活動です。

当院の認知症ケアサポートチーム(DCT)は、行動心理症状(Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia :BPSD)や意思疎通の困難さがみられ、身体疾患の治療への影響が予測される患者さんに対し、多職種が適切に対応することで認知症の症状の悪化を予防し、入院の目的である身体疾患の治療を円滑に受けられることを目標としています。チームメン

バーは神経内科医師、精神神経科医師、認知症看護認定看護師、病棟リンクナース、入退院支援看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、管理栄養士、事務職と多職種で構成されています。

今後当院に入院される認知症の方が、本来の入院目的および急性期の治療が適切に実施され、早期に住み慣れた環境に戻れることを目指します。認知症の人やその家族が安心してかつ安全に入院治療を受けられるよう、主治医や病棟看護師だけでなく、多職種や他の医療チームとも連携できるような体制を構築していきたいと考えています。



九州ところどころ

むろみ 室見川～パスタと手作りパンのお店 Olive (オリーブ) ～

福岡市早良区の中心部を流れ、多くの野鳥が観測される室見川。百道浜方面を背に、右側の川沿いを進んだところにあるイタリアンレストラン「Olive」。「スパゲッティーソース、パン、ケーキ、ドレッシングに至るまで、素材にこだわり全て手作り無添加です」(HPより)。私は毎回ランチタイムに行くのですが、最初に出てくるサラダから見た目も味も良く、デザートは

写真のように実物を見て選ぶようになっており、種類が多くどれにしようか迷うのもお楽しみの1つです。お腹も気持ちも満たされ帰る時、レジ近くの可愛くレイアウトされたスペースにパンコーナーが・・・毎回その誘惑に負け買って帰ります。必ず買うのはハーブが練りこまれたフワフワの香草パンです。

ファン歴20年以上のバンドのボーカルが、30年近く前の地元紙(?)のインタビューで、名曲とも言える某曲について「・・・(歌詞省略)は福岡市のM見川の事です」「まさに福岡の風景の歌なんです」と答えていました。「それ室見川やろ」と思った私。Oliveを知ってから、ファン友達と会う時は室見川案内からのランチはそこで決めています。晴れの日であれば、キラキラした川で水遊びをしている水鳥をバルコニー席で眺めつつ、その曲を流しながら食事を楽しんでいます。人気店なので、窓際やバルコニーを希望するなら予約がベストです。駐車場もありますが、室見駅から徒歩約12分。この広報誌を手にとられるのは4月も終わるころ。室見川沿いを、心地よい初夏の風にあたりながらテクテク歩いて行くのもオススメです。

ペンネーム：こんちゃん



地域医療研修センターより

第30回2024年度『地域医師のための生涯研修セミナー』の御案内

『地域医師のための生涯研修セミナー』は、昭和56年より前身である国立福岡中央病院(福中)時代より福岡県医師会との共催で、“地域医師の生涯教育を推進すること”を目的として取り組んでおり今年で第30回目を迎えます。現在、福中OB会のお手伝いをしているのですが、会員数の減少と高齢化に伴い存続困難となり、本年、6月のOB会を最後に解散することとなりました。長きに渡り当セミナーを継続できているのも、立ち上げ並びに当院への引継ぎの際、ご尽力頂いた当時のスタッフの方々のおかげだと感謝しております。



なお、今回の発送分に今年度のパンフレットを同封しておりますので、ご覧頂ければ幸いです。

30年続く当セミナーを継続できるよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

★九州医療センターホームページ (<https://kyushu-mc.hosp.go.jp>) → 『ささえる』 → 『地域医師のための生涯研修セミナー』ページからのお申込み、また各回の内容確認もできます。



医療職（一）

就任	消化管外科医長	太田 光彦	退任	肝臓センター部長	中牟田 誠
	代謝・内分泌内科医師	押領司 眞子		整形外科医長	寺田 和正
	脳神経内科医師	今村 裕佑		消化器内科医長	原田 直彦
	消化器内科医師	豊田 優貴		消化管外科医長	上原 英雄
	消化器内科医師	深浦 啓太		放射線科医師	古谷 清美
	消化器内科医師	大久保 彰人		代謝・内分泌内科医師	勝原 俊亮
	消化器内科医師	上田 哲弘		脳神経内科医師	村谷 陽平
	循環器科医師	高橋 甚彌		消化器内科医師	田代 茂樹
	循環器内科医師	浦 祐次郎		消化器内科医師	濱田 匠平
	循環器内科医師	岡部 浩祐		循環器科医師	竹中 克彦
	小児科医師	西村 真直		小児科医師	東 加奈子
	小児科医師	花木 由香		精神科医師	高橋 潤一
	精神科医師	西岡 慧		放射線科医師	亀井 僚太郎
	放射線科医師	吉川 真由美		消化器外科医師	久松 雄一
	放射線科医師	小倉 琢嗣		外科医師	和田 幸之
	放射線科医師	菊野 亮栄		呼吸器外科医師	上妻 由佳
	消化器外科医師	田尻 裕匡		呼吸器外科医師	豊川 剛二
	呼吸器外科医師	徳永 貴之		脳神経外科医師	後藤 克宏
	呼吸器外科医師	三浦 奈央子		心臓血管外科医師	鈴木 理大
	脳血管内治療科医師	松下 航		心臓血管外科医師	角 裕一郎
	脳神経外科医師	山上 敬太郎		泌尿器科医師	貝通 丸雅士
	心臓血管外科医師	元松 祐馬		眼科医師	山名 智志
	心臓血管外科医師	岡本 光司		皮膚科医師	西尾 紀一郎
	泌尿器科医師	森原 楓		耳鼻咽喉科医師	内 龍太郎
	眼科医師	和田 伊織		耳鼻咽喉科医師	藤原 義宜
	皮膚科医師	村田 真帆		形成外科医師	古賀 文貴

医療職（一）

就任	耳鼻咽喉科医師	藤村 晶子	退任	麻酔科医師	松下 克之
	耳鼻咽喉科医師	久我 亮介		麻酔科医師	松岡 友香
	形成外科医師	市川 宗近			
	麻酔科医師	濱地 朋香			
	麻酔科医師	中山 昌子			
	麻酔科医師	福地 香穂			
	集中治療科医師	吉田 真一郎			

医療職（二）

就任	臨床検査技師長	染矢 賢俊	退任	臨床検査技師長	松下 義照
	副臨床検査技師長	安達 知子		副臨床検査技師長	渡辺 秀明
	副診療放射線技師長	座木 みゆき		副診療放射線技師長	今西 美嘉
	副栄養管理室長	松川 麻梨子		副栄養管理室長	青堀 尚子
	理学療法士長	岡村 武		理学療法士長	田中 正則
	臨床工学技士長	富永 圭一		臨床工学技士長	田代 博崇

医療職（三）

就任	副看護部長	長田 祐子	退任	副看護部長	西 美穂子
	副看護部長	山下 智美		副看護部長	養田 尚美
	看護師長	久富 沙紀		看護師長	吉村 佳也子
				看護師長	松本 和佳子

事務職

就任	事務部長	吉弘 和明	退任	事務部長	佐々木 豊光
	経営企画室長	松尾 俊宏		経営企画室長	橋本 裕二
	業務班長	福崎 勇治		業務班長	向井 優
	専門職	松本 真治		専門職	山梨 祥吾

編集後記

400年の時を超えて福岡城に「幻の天守閣」がライトアップされています。時間帯によって色や光り方が変化します。期間は5月31日までです。一見の価値はあるかと思います。

副編集委員長 占部 和敬

この春は長く仕事を共にしたスタッフを見送る寂しい気持ちから始まりました。しかし、それもつかの間、新しい出会いが、また私をワクワクさせ、次の場面に運んでくれました。一期一会。新年度を共にいる意味を感じつつ頑張りたいと思います。

編集委員長 高見 裕子

医事統計 患者数・診療点数の推移

■令和5年度は、月平均入院患者数605人と、病床利用率86%達成に向けて取組んでいきましょう！（令和6年2月現在の暫定値）

外来新患者数は、今年度2月までの実績で20,272名と前年同月までと比べ1,901件の減となっています。今年度も、新紹介患者の確保と逆紹介の推進が重要となります。1日平均外来患者数は、2月までの実績で890.2名と昨年同月までの実績（910.6名）と比較して20.4名の減となっております。

1日平均入院患者数は今年度2月までの実績で576.2名と昨年同月までの実績（573.8名）と比較して2.4名の増となっております。新入院患者数は2月までの実績で昨年度同月までと比較すると1,058名の増となっております。平均在院日数につきましては、昨年度と比較して0.8日減って11.5日となっております。

入院1人1日当たり診療点数は、今年度2月までの実績で8,526.5点と昨年の実績と比較すると345.2点の増となっております。外来1人1日当たり診療点数については、今年度2月までの実績で3,282.3点と昨年同月までの実績と比較して79点の増となっております。

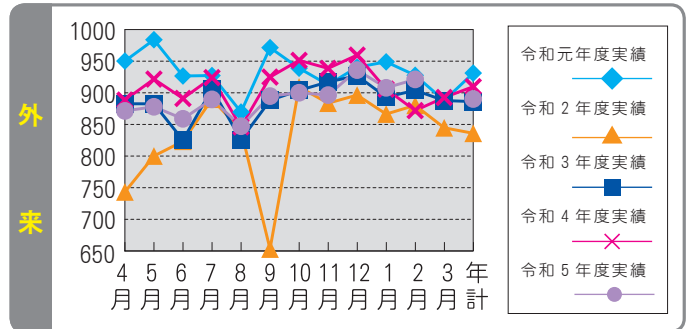
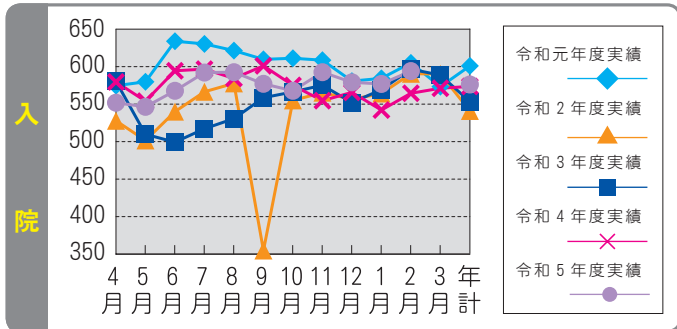
紹介割合は、2月までの実績で96.2%となっており高い割合を維持しています。

1日平均
入院患者数
(在院)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	574.6	579.8	633.9	630.3	621.4	609.7	611.2	608.6	580.7	584.4	605.0	573.3	601.0
令和2年度実績	527.8	501.6	540.0	566.5	577.7	354.8	555.0	565.3	556.5	564.2	590.5	590.4	540.9
令和3年度実績	580.4	509.8	499.3	517.2	530.7	558.6	566.3	575.2	552.1	569.3	596.6	588.7	553.3
令和4年度実績	579.6	554.0	594.5	596.7	584.3	601.1	575.0	554.6	565.7	542.1	564.5	571.2	573.6
令和5年度実績	551.9	546.4	567.8	592.1	592.6	577.1	567.8	592.6	579.1	576.9	594.1		576.2

1日平均
外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	950.2	983.9	926.6	927.3	869.6	971.4	938.9	912.7	940.5	948.9	927.7	887.7	931.2
令和2年度実績	743.3	800.1	823.4	889.9	840.8	653.0	909.2	883.6	896.4	866.4	880.2	844.7	836.0
令和3年度実績	882.7	882.6	825.3	906.0	825.7	888.1	903.8	917.2	927.0	893.2	903.9	887.8	886.1
令和4年度実績	888.5	921.7	891.1	924.0	846.1	924.9	951.3	938.6	959.6	905.8	871.9	892.6	909.7
令和5年度実績	871.4	877.9	858.9	889.6	847.2	894.8	900.1	896.4	935.9	907.9	921.2		890.2

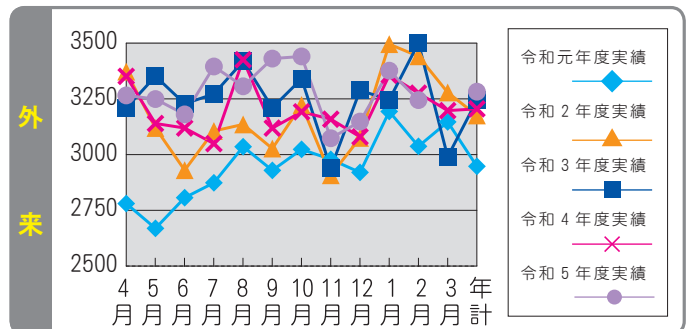
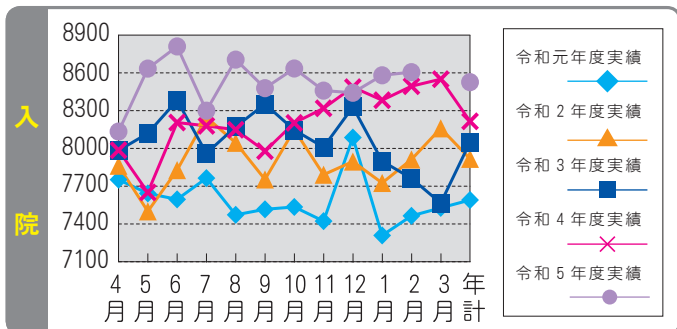


入院
1人1日当り
診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	7,752.0	7,642.8	7,595.5	7,764.1	7,472.8	7,516.6	7,535.3	7,422.6	8,086.5	7,309.2	7,464.6	7,528.1	7,590.5
令和2年度実績	7,862.5	7,500.1	7,827.7	8,247.6	8,044.8	7,753.7	8,149.1	7,791.3	7,895.8	7,725.7	7,912.4	8,159.6	7,917.4
令和3年度実績	7,983.7	8,119.7	8,381.9	7,961.4	8,172.2	8,352.7	8,146.2	8,010.4	8,329.4	7,899.1	7,762.5	7,565.7	8,050.3
令和4年度実績	7,986.1	7,650.9	8,205.6	8,179.4	8,148.4	7,979.0	8,202.6	8,318.7	8,486.7	8,383.0	8,494.2	8,550.1	8,215.4
令和5年度実績	8,134.0	8,634.1	8,810.2	8,299.8	8,705.5	8,478.6	8,634.9	8,459.3	8,442.2	8,580.9	8,605.9		8,526.5

外来
1人1日当り
診療点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	2,780.4	2,669.1	2,806.7	2,873.5	3,035.4	2,929.2	3,023.6	2,978.7	2,920.1	3,193.5	3,037.1	3,146.7	2,947.4
令和2年度実績	3,372.3	3,119.3	2,930.1	3,105.9	3,135.4	3,027.2	3,222.5	2,907.3	3,074.9	3,495.5	3,441.0	3,278.8	3,175.6
令和3年度実績	3,208.4	3,351.9	3,227.9	3,272.2	3,418.7	3,209.9	3,340.1	2,938.5	3,288.3	3,245.5	3,500.6	2,990.2	3,243.9
令和4年度実績	3,351.1	3,139.6	3,119.2	3,049.0	3,425.7	3,118.9	3,191.8	3,158.9	3,079.7	3,356.1	3,275.7	3,197.4	3,205.3
令和5年度実績	3,265.5	3,249.2	3,180.3	3,395.3	3,306.4	3,430.7	3,440.4	3,073.4	3,148.1	3,376.5	3,244.6		3,282.3



紹介割合
推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度実績	98.6	98.4	98.7	95.6	97.8	96.7	97.6	98.3	100.3	98.2	98.6	94.1	97.8
令和2年度実績	77.7	98.1	96.2	88.4	89.0	90.2	98.4	93.8	97.0	76.4	90.4	97.8	91.5
令和3年度実績	93.9	87.6	96.2	95.8	92.2	92.1	99.3	100.3	101.1	91.0	76.6	94.0	93.6
令和4年度実績	94.9	95.7	97.2	84.3	81.9	94.4	96.1	94.9	87.5	90.0	98.6	97.1	92.7
令和5年度実績	96.4	95.7	97.4	96.9	96.0	98.7	97.8	95.3	95.7	95.9	91.9		96.2

